

はじめに

川島町は清流木曾川と緑豊かな美しい自然に恵まれた町です。

町なかに点綴する松林や広大な河川敷などは大空を飛来する渡り鳥の休息の場であり、またここに生息する種々の野鳥にとって絶好のすみかとなっており、野鳥愛好家の間では野鳥の数が非常に多いことで知られています。

これまでに観察された野鳥の数は約200種におよんでいます。このことはとりもなおさず川島町の自然がすぐれており住みよい環境であることの表れです。

この冊子は川島町民会館の竣工を記念し、自然環境に恵まれた本町を再認識していただくとともに、本町周辺で観られる野鳥の数々を紹介するために発刊したものです。

これからも自然を大切に、ふるさとを愛し、豊かな町づくりにみなさんと努めていきたいものです。

昭和58年4月

川島町長 尾 関 正 爾



川島町の野鳥

目次	● 環境からみた野鳥の生息状況……………4
	林地には……………5
	草地や砂れき地には……………6
	湿地や水域には……………7
● 四季の野鳥……………8	
	一年中見られる鳥(留鳥)……………8
	春・秋に見られる鳥(夏鳥・旅鳥)……………16
	夏に見られる鳥(夏鳥)……………21
	冬に見られる鳥(冬鳥及び漂鳥)……………25
● 珍しい鳥(迷鳥)……………33	
● 川島町付近木曾川流域で観察された野鳥……………36	

環境から見た野鳥の生息状況

本町を流れる木曾川周辺の地形は、林地、草地、砂れき地、湿地、水域などで構成され、自然度の高い環境となっております。

このため本町周辺は、水鳥や渡り鳥など数多くの野鳥の休憩と繁殖の適地となっています。

春には、シギ、チドリ類が渡りの中継地として飛来し、夏には、サギのコロニー（集団繁殖地）が形成されます。

秋には、サシバ、ハチウマなどタカ類の渡りが見られ、冬には、木曾川の中洲にカモの大群が押し寄せ水鳥の生息地となります。

昭和44年から現在までは木曾川の河川敷を中地に、その周辺で野鳥の雛抜けと思われる鳥13種を含めて214種（この内の80%以上が渡り鳥）もの多くの野鳥が観察されています。

それではどのような場所にとどのような野鳥が生息しているのでしょうか。



● **林地には** 春から夏にかけてカワラビワ、モズ、ビヨドリ、キジバト、ハシボソガラス、トビなどが繁殖し、春・秋の渡りの頃にはキビタキ、オオルリ、クロツグミ、コマドリ、エゾムシクイなどが飛来し、冬にはシジュウカラ、シロハラ、ツグミ、ビンスイ、アカゲラ、オオタカなども生息しています。

また松倉町の松林には毎年サギ類がコロニー（集団繁殖地）をつくり、これまでにタイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、ササゴイの繁殖が確認されています。



▲ **カワラビワ**（河原鶇）

宿鳥で冬は河原の草むらにいることが多く、雑草の種子を食べる。



▲ **キビタキ**（黄鶇）

夏鳥で橋より高いところから空中で虫を捕らえる。ピッコロ、ピッコロと美しい声で鳴く。



▲ **ビンスイ**（使鳩）

渡鳥でM内の地上でエサを取ることが多く、尾を上下に振る。

▶ **チュウサギ**（中鶺鴒）

夏鳥で繁殖期には長い腿羽が美しい。松倉町の松林で少数が繁殖している。



●草地や砂れき地には

春から夏には、ヒバリ、セツカ、キジ、シロチドリ、イソシギ、カルガモなどが繁殖し、春・秋の渡りの頃にはノビタキ、アカモス、オオシジュリン、チュウシャクシギ、ムナグロなどが休息し、冬にはツグミ、タビバリ、ハフセキレイ、チョウゲンボウ、ハヤブサが飛来します。

また木曽川河川敷中洲（松倉裏）の砂れき地では、毎年コアジサシがコロニーをつくっています。



▲ シロチドリ（白千鳥）

留鳥で巣に外敵が近づくと他のチドリ類と同様に擬態を行う。



▲ チュウシャクシギ（中杓鷺）

旅鳥でくちばしが長くて下に曲っている。特に春河川通過する。



▲ ハフセキレイ（白鵞鷗）

冬鳥で川原、湿地などの地上で昆虫やワグモなどを食べる。夜橋村などに集団でねぐらを組む。



▲ オオシジュリン（大青鷺）

冬鳥でヨシの密生地につきすみ、昆虫を好んで食べる。

●湿地や水域には

春から夏にはカイツブリ、ハド、オオヨシキリが繁殖し、春・秋の渡りの頃にはキアシシギ、オソノリハシシギ、タカアシシギなどが飛来し、冬にはマガモ、コガモ、オナガガモ、コリカモメ、セグロカモメ、カワウなどが群棲しています。



▲ オオヨシキリ（大雁切）

夏鳥でヨシの葉を数本利用して杯状の巣をつくる。ギョギョシ、ギョギョシとよく鳴く。



▲ キアシシギ（黄足鷺）

旅鳥で春・秋の渡りの時本宮川畔に着陸をなしてやってくる。足が黄色い。



▲ コガモ（小鴨）

冬鳥で木曽川の中洲に数多く越冬している。カモの中では一番小さい。



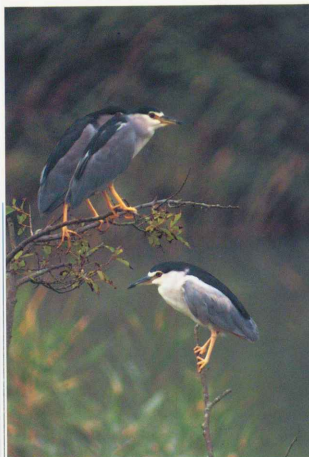
▲ セグロカモメ（背黒鷗）

冬鳥でハドと同じ。コリカモメより大きく数は少ない。

四季の野鳥

●一年中見られる鳥（留鳥）

季節によって移動せず一年中同一場所にいる鳥。（31種）



▲ゴイサギ（サギ科）

カラスぐらいの大きさ。水田、湿地、川に周年生息し、夜飛びながらフワツ、フワツと鳴き、白に染がらすと輝かれ、魚やザリガニ、カエルなどを食べ繁殖しています。

▶コサギ（サギ科）

白サギの中では一番小さく、水田や川で魚やザリガニなどを食べます。
本町の松島曲の松林にタイサギ、チュウサギ、アマサギ、コイサギ、ササゴイとともにコロニーをつくっています。

カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、タイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、コジュケイ、キジ、タマシギ、イカルチドリ、シロチドリ、ケリ、キジバト、カワセミ、ヒノドリ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モス、ウグイス、セッカ、エナガ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボロガラス、ハシトガラス



▲アオサギ（サギ科）

カラスよりずっと大きくサギの中では一番大きい。水田、湿地、川、河口などであきながら魚、カエル、トカゲ、ヘビなどを食べます。



▲カルガモ（ガンカモ科）

カラスぐらいの大きさ。カモには珍らしくオス・メス同色である。水田や川、池に生息し、水草の葉や根、タニシなどを食べ繁殖しています。町内でも夏にはヒヨを連れて木曾川を泳ぐほほえましい姿が見られます。



▲トビ（ワシタカ科）

カラスより大きく脚尾を持ち、畑や川・道路の近くにすみ、両翼をいっぱい広げて飛びながら、ビーヒョロと鳴きえさをさがし、弱った魚や死んだ動物などを食べます。

四季の野鳥



▲ キジ (キジ科)

カフスより大きく尾が長い。草原や耕地にすみ、繁殖期には1羽のオスが数羽のメスを連れていきます。ケツ、ケツとカカンゴンと大きな声で鳴き、草の種子や昆虫などを食べ期内では多く繁殖しています。日本の国鳥に指定されています。



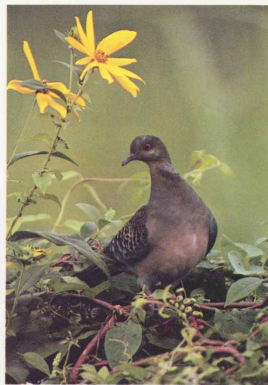
▲ イカルチドリ (チドリ科)

チドリくらい大きさ。川の中流より上流に生息し、川原の小砂利に降りるように簡単な巣を造り3~4個の卵を産み、おもに昆虫を食べています。本町で「川原走り」と呼ばれているのはこの鳥のことです。



▲ ケリ (チドリ科)

チドリより少し大きめで、足が長い。飛ぶと翼の白黒模様が目立つ。水田、川原、草地に生息し、昆虫やミミズなどを食べます。キリッ、キリッとするどく鳴き本町でも繁殖しています。



▲ キジバト (バト科)

面白いトより少し小さい。平地から山地の林に生息し、テマリボウボウと囀き地上を歩きながら植物性のエサをあさります。近年は人になれたたいが、郊や公園、市街地の路上でエサをさがしています。町内でも多数繁殖しています。



▲ カワセミ (カワセミ科)

スズメくらいの大きさ。川や池など水のある所に生息し、水中にダイビングして小魚や水生昆虫をとる。川岸の崖に穴をほって巣を造る。本町では巣をつくる場所がなくなってきたが少数繁殖しています。その美しさから「飛び宝石」と呼ばれています。



▲ ヒバリ (ヒバリ科)

スズメより少し大きい。草原や川原に生息し、地上を歩きながら昆虫や草の種子を食べます。草が緑色になり始めると美しくさえずりながら空高く飛びあがります。本町では、川原の石や草の先にとまてさえずる姿をよく見かけます。



▲キセキレイ (セキレイ科)

スズメくらいの大きさと尾が長い。平地から山地の川や池の近くに住み、地上や水辺で尾を上下に振りながら歩き回り、昆虫やクモなどを食べます。



▲ヒヨドリ (ヒヨドリ科)

ムクドリくらいの大きさと、尾が長い。留鳥または渡鳥として平地や山地のMにすまアケビ、ノドグサ、ナンテンなどの実を食べたり、ワメ、サクラ、ツバキの蜜を吸う。ピーコ、ピーコとかん高い声で囀る。飛び方は大きな波形をえがきます。町内でも林内で繁殖しています。



▲セグロセキレイ (セキレイ科)

スズメくらいの大きさと、尾が長くスマートな鳥。川畔に生息し尾を上下にふるながら歩いて昆虫やクモなどを食べます。

本町に多い鳥で人家のすき間、石垣のすき間などに巣をつくっています。



▲モズ (モズ科)

スズメよりかなり大きく、頭でっかちで尾が長い。低地の林や木のある川原などに繁殖しています。昆虫や小動物を食べます。「モズのハヤニエ」といってトゲのある小枝や有棘鉄線などに捕えた獲物をつき刺しておく奇習を持っています。町内でも多数繁殖しています。



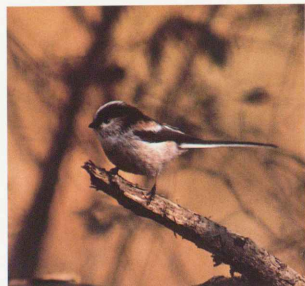
▲ウグイス (ヒタキ科)

スズメくらいの大きさ。守地から高い山のやぶにすみ昆虫やクモを食べますが和の葉も食べます。

春はホーホーキョ、冬はチャッチャツと季節によって囀き方がちがいます。

▲セツカ (ヒタキ科)

スズメよりずっと小さい。草間に生息し、草の中で昆虫やクモを食べます。イネ科植物の株の中にクモの糸で藪の葉をつつり合わせて巣をつります。舞いあがるときヒツヒツヒツと囀き、おりてくるときにはジャツジャツジャツと羽の音をつらします。



▲ エナガ (エナガ科)

スズメより小さく尾が長い。低山帯の林や低木林に生息し、枝の間や薪のまたに多量のコクをぐも茶で固めて、楕円形の巣をつくります。ジュリジュリと鳴きながら活発に枝移りして昆虫を食べます。



▲ ホオジロ (ホオジロ科)

スズメより少し大きく尾が長い。草原に多く生息し、草の種子や昆虫などを食べます。木のこずえや草の先にとまり、さえずる声は「一連発上仕候」または「源平ツツジ、白ツツジ」と聞える鳴き声で長くさえずります。町内でも多く繁殖しています。



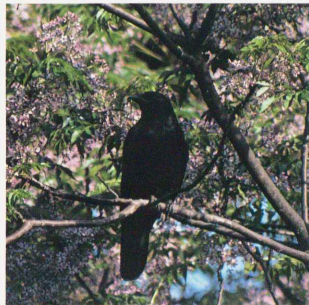
▲ スズメ (ハタオリドリ科)

人家付近に生息し、建物のすき間などに巣をつくる。地上で植物の種子や人の落したパンくず、昆虫を食べます。稲の害鳥といわれますが、繁殖期には多くの昆虫も食べています。町内では数が所でねぐらが確認されています。



▲ ムクドリ (ムクドリ科)

地上をのこの歩いて昆虫などをさがすことが多いが、木の葉なども食べます。人家のカワラの下や天井うら、屋根に巣をつくり、秋・冬には大木のしげみや竹やぶをねぐらとして大群が集まります。



▲ ハシボソガラス (カラス科)

水田や川原などによく見られ、雑食性でごみ捨場もあそびます。秋・冬には一定の林をねぐらとして大群が集まり夜を過ごしします。

●春・秋に見られる鳥(夏鳥・旅鳥)

繁殖するため、我国に渡来するが当地を通過する鳥や北国への渡りの途中に立寄る鳥。(一部の冬鳥、漂鳥を含む) (57種)

ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、サシバ、メダイチドリ、ムナグロ、タイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ウスラシギ、オノロギ、ツルシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、オオノリハシシギ、タイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、オオジシギ、アジサシ、ジユウイチ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、アマツバメ、アリスイ、ショウドウツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、サンショウウイ、チゴモス、アカモス、ヒレンジャク、コマドリ、ノゴマ、コルリ、ノビタキ、マミシロ、クロツグミ、マミチャジナイ、ヤブサメ、マキノゼンニュウ、コヨシキリ、メボロムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、サメビタキ、エノビタキ、コサメビタキ、ノジコ、マヒワ、ニューナイスズメ、コムクドリ



▲ ミサゴ (ワシタカ科)

カラスより大きい。おもに海岸にすむが、大きな湖や川にも飛来します。春・秋の渡りの頃長い翼で水の上を飛び足から水につっこみ魚をつかみとる姿が本場でよく見られます。



▲ ツミ (ワシタカ科)

ハトより小さい。平地から山地の林にすみ、はやいはずなさと短い翼をくりかえして直線的に速く飛び、林の中で小鳥や昆虫、小形哺乳類をとらえます。



▲ サシバ (ワシタカ科)

カラスぐらいの大きさ。低い山で繁殖し、ヒツォーとよく鳴きます。

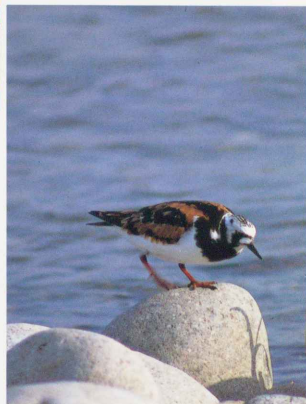
ハト、カエル、ズズミ、昆虫などをとらえて食べます。秋には散れで南の国へ渡るが、本場でも田舎茶畑から数十羽の群れで移動するサンバの渡りが見られます。



▲ ツルシギ (シギ科)

ハトぐらいの大きさで足が長い。水田、湿地、川岸に飛来し、歩きながら水生昆虫などを食べます。

夏羽は黒に白の斑紋があり、冬羽は下面が白で褐色の斑紋があり、全く別の種類のように見えます。



▲ キョウジョシギ (シギ科)

ハトより小さく、春と秋に海岸や川岸に飛来します。歩きながら動物性のえさをあさり、本場では春に本留川の中洲で石をむくくりかえして、えさをあさる群れを見ることできます。



▶ **タカブシギ** (シギ科)

ムクドリぐらいの大きさで、春と秋に水田、湿地、川岸などに飛来します。

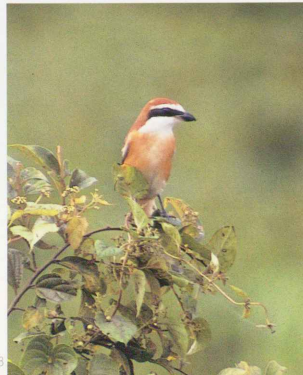
昆虫や貝などを食べ、飛び立つときにビッビッビッと鳴きます。町内では春・秋の遡りの頃には木曽川畔で見られます。



▲ **ヒレンジャク** (レンジャク科)

スズメより大きい。群えていることが多く、低山や平地の実のなる木に集まり、電線やテレビのアンテナに並んでとまることもあります。

フコガネモチ、ヤツデ、ソイ/ワなどの実を食べます。



▲ **カッコウ** (ホトトギス科)

ハトぐらいの大きさで、スタートを鳥。ヨシ原や木のある草間に生息し、昆虫をよく食べます。

オスはカッコウ、カッコウとよくとある声で鳴く。ホトトギス科の鳥は自分で巣をつくらず、他の鳥の巣に卵を産みつけ、ヒナを育てさせます。

▶ **アカモズ** (モズ科)

スズメぐらいの大きさで尾が長い。木のある草原や明るい林に生息し、昆虫や小動物を食べます。



▲ **メボソムシクイ** (ヒタキ科)

スズメより小さい。高山上にすみ昆虫やクモを食べます。春の遡りの頃には町内のMでジョリ、ジョリ、ジョリ、ジョリと響く声がよく聞かれます。

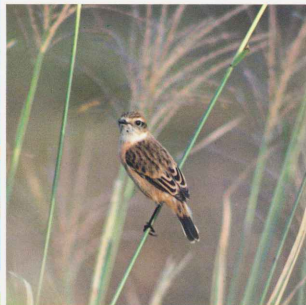
▶ **オオルリ** (ヒタキ科)

スズメより少し大きい。深淵にそった林に生息し、昆虫や木の实を食べます。春にはホイヒービビ、ピールリジッと響きウグイス、コマドリとともに日本三鳥鳥といわれるほど美しい声で鳴きます。



◀ エノビタキ (ヒタキ科)

スズメより小さい。
渡りのときには平地や山地の林に飛来します。
本町でも秋に枯枝の先やテレビのアンテナ、電線などに
とまり、昆虫をフライング、キャッチする姿が見られます。



▶ ノビタキ (ヒタキ科)

スズメより小さい。
草原や島原で繁殖し、渡りのときには水辺のヨシ原など
に飛来します。
本町では秋に多く、ススキの穂にとまって昆虫をとる姿
が見られます。



▶ コムクドリ (ムクドリ科)

スズメより大きく、ムクドリより小さい。
山地の明るい林に生息し、樹洞に巣をつくるが巣箱にも
よく入ります。
木の实や昆虫を食べケクル、キユル、キユルリと鳴きま
す。



● 夏に見られる鳥(夏鳥)

春、南の国から渡来し、この地方で繁殖し、秋に南の国へ飛び去る鳥。
(13種)

ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、ヒクイナ、バン、コチドリ、イ
ソシギ、コアジサシ、アオバスク、ヨタカ、ツバメ、オオヨシキリ、
サンコウチョウ



▶ ササゴイ (サギ科)

カラスより少し小さい。
飛びながらビョーとかキョーという声で長く鳴
きます。
本町では、松島町のサギのコロニー内で小数が
繁殖しています。



▶ アマサギ (サギ科)

カラスより小さい。
水田や湿地、草地などでカエルや昆虫をよく食
べます。
本町では松島町のサギのコロニーでゴイサギや
シラサギ類とともに集団で繁殖しています。



▲ ハン (フィナ科)

ハトぐらいの大きさ。
川畔の湿地やヨシ原、水田などに生息し、ワルブルと鳴きます。
草の種子や昆虫、貝などを食べ、本明では越冬するものもいます。



▲ コチドリ (チドリ科)

スズメより少し大きい。
川畔、水田、稲作などに生息し、歩きながら昆虫を食べます。
藪が巣やヒナに近づくとき自分自身が動つたように見せかけ、敵の目をこちらに向けさせ、そのすきにヒナを安全地帯に逃す行爲をします。



▲ イソシギ (シギ科)

ムクドリぐらいの大きさ。川畔などに生息し、草むらで繁殖しています。チリチリと鳴きながら水面近くを飛び、昆虫やエビなどを食べます。



▶ コアジサシ (カモメ科)

ムクドリぐらいの大きさと翼が長く、ツバメのような尾のスマートな水鳥。
田舎、河口、川に遊来し、水の上を飛びはばたきながら空中の一点にとどまってから、急降下して小魚を捕ります。
本明では、木曾川の中瀬にコロニーをつくり繁殖しています。



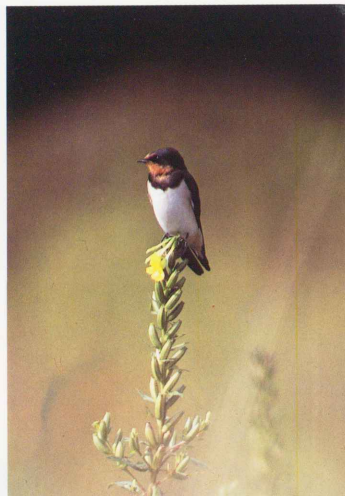
▲ ヨタカ (ヨタカ科)

ハトぐらいの大きさ。
木のある草原や明るい林に生息し、キョキョキキョキキョと連続した大きな声が毎夜聞かれます。夕方から飛びまわって口を大きく開き、蚊や蚊を食べます。他の鳥とちがって木の枝に平行にとまっています。



▲ アオバズク (ワウロウ科)

ハトぐらいの大きさ。
平地から山地の林に生息し、樹洞を巣とします。ホウホウ、ホウホウと鳴き大型の昆虫や小鳥などを食べます。
本明では、巣箱を利用して繁殖したこともあります。



◀ ツバメ (ツバメ科)

スズメぐらいの大きさで、尾は長くてわかれてい
ます。

人家の軒下に巣をつくり水田、草際、川などの上
を飛びまわって昆虫を食べます。

本町では多数繁殖しています。

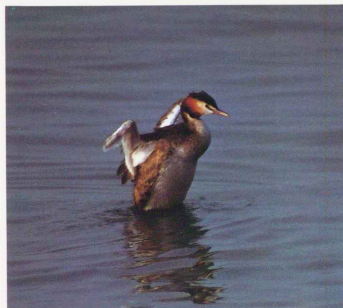


● 冬に見られる鳥(冬鳥・漂鳥)

北国や山地で繁殖し、厳しい寒さからのがれて渡来し、冬を越す鳥。

(63種)

カンムリカイツブリ、マガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オ
カヨシガモ、ヒドリガモ、オナカガモ、ハンビロガモ、ホシハシロ、
キンクロハシロ、スズガモ、ミコアイサ、カワアイサ、オオタカ、
ノスリ、チュウビ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ウスラ、クイナ、
タゲリ、ハマシギ、クサシギ、ヤマシギ、ダシギ、コリカモメ、セ
グロカモメ、カモメ、ウミネコ、アオイト、コミミズク、フクロウ、
アオゲラ、アカゲラ、ハクセキレイ、ヒンズイ、タヒバリ、ミソサ
ザイ、カヤクグリ、ルリヒタキ、ジヨウヒタキ、イトビヨドリ、ト
ラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、キクイタダキ、ヒガラ、
ヤマガラ、シジュウカラ、ホオアカ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、
アオジ、クロジ、オオジュリン、アトリ、ヘニマシコ、ウソ、イカ
ル、シメ、カケス



◀ カンムリカイツブリ (カイツブリ科)

ハトぐらいの大きさ。

湖沼、沼澤、河口などに遷来する。カイツブリの
中では一番大きく、水中にもぐって魚を捕ります。
本町では本郡川に少数が飛来します。



▲ マガモ (ガンカモ科)

カラスぐらいの大きさ。湖、沼、川などにすみ、水中に首をつっこんで水草などを食べます。アヒルの近種。

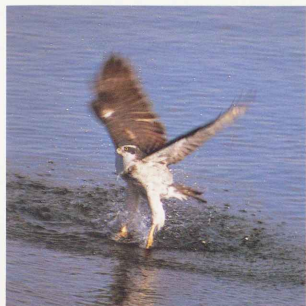
本町には、オナガガモ、マガモに続いて多く渡来します。一部繁殖が確認されています。



▼ オカヨシガモ (ガンカモ科)

カラスより小さい。北海道で少数繁殖し、冬に内陸の湖沼、池、川などに飛来します。

町内では毎年本町川で観察されていますが、その数は多くありません。



▶ オオタカ (ワシタカ科)

カラスより少し大きい。山地の森林に生息するが、秋・冬には低地にもいます。本町では越冬するものもいて、カモを襲う姿を見ることがあります。



▲ ノスリ (ワシタカ科)

カラスぐらいの大きさ。山地の林にすみ、おもにネズミ類を食べるほか、鳥類、カエル、ヘビなども食べます。町内では冬の空にははたきつつとまり、獲物をならう姿を見ることがあります。



▶ ハヤブサ (ハヤブサ科)

カラスぐらいの大きさ。稲作や農耕地など開けた場所にすみ、カモ、シギ、チドリ、ハトなど飛んでいる鳥を上空から急降下してとらえます。町内でも毎年越冬するものがあり、カモを襲う姿を見ることがあります。



▶ オナガガモ (ガンカモ科)

カラスより大きい。広い川、湖、沼などに渡来し、水面で立ちをしながら水草を食べます。

本町には渡来する数千羽のカモの中ではこのカモが最も多くいます。



▲ **ウイナ** (ウイナ科)

ハトぐらいの大きさ。
 ヨシ原や水辺の草の中に生息し、なかなか姿を見ることができません。
 草の隙をしのぎ足のようならかっこうで歩きまわり、ザリガニ、ミミズ、植物の種子などを食べます。



▲ **タシギ** (シギ科)

ムクドリぐらいの大きさ。
 川岸に生息し、日中は草のかけでじっとして、夕方から活動する。長いくばしを泥につきさして、ミミズや昆虫を食べます。飛び立つときにジューッと鳴きます。



→ **コリカモメ** (カモメ科)

ハトぐらいの大きさ。
 湖畔や河口、広い川などに生息し、河口から50kmぐらいの上流まで飛来します。水の上をゆっくりとははたきながら飛んでエサをさがします。
 本州には冬数多く飛来し、水に飛び込んで魚をとる姿を見ることがあります。



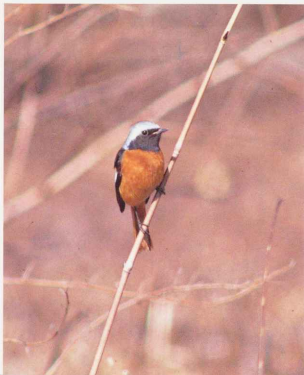
▶ **フクロウ** (フクロウ科)

カラスぐらいの大きさ。平地や山地の森林にすみ、夕方から活動し、おもにリスや鳥類を食べます。
 コロスケホツホツなどと鳴きます。



▲ **アオゲラ** (キツツ科)

ムクドリより少し大きい。
 中地のキツツキで、山地の林に生息し、カミキリの幼虫やアリを好んで食べます。
 本州の松の幹につかまりビョービョーと鳴くのを見かけます。



▶ **ジヨウビタキ** (ヒタキ科)

スズメぐらいの大きさ。
 低木林や川原、藪藪などに生息し、いつも尾をビリビリ振り、おしきをするようにビョコリと頭を下げる仕草が見られます。



▶トラツグミ (ヒタキ科)

ハトより小さいがツグミの仲間では一番大きい。地上でエサをさがすことが多く、昆虫、クモ、ミミズなどを食べます。

即内の林では少数が越冬しています。



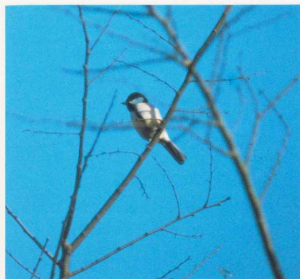
▶アカハラ (ヒタキ科)

ムクドリくらいの大きさ。山地の明るい林で繁殖し、冬には平地の林に生息します。地上を歩きながら昆虫をさがしますが木の葉も食べます。本町では3月頃にキヨロンキヨロン ツリーというさげりが観こえます。



▶ツグミ (ヒタキ科)

ムクドリくらいの大きさ。遷って来てすぐには山地の林に群れています。だんだん平地へ移動して来て、川原や野原などで昆虫をさがしたり、木の葉を食べます。



▶シジュウカラ (シジュウカラ科)

スズメくらいの大きさ。林に生息しツツピー、ツツビーと鳴きます。冬は群れて生活し、活発に動きながら枝這りし、昆虫やクモ、木の葉などを食べます。



▶アオジ (ホオジロ科)

スズメくらいの大きさ。山地の明るい林に生息し、秋・冬には平地のやぶに多く、公園や庭にも来ます。チツチツと地鳴きをしながら地上で草の種子などをひろっています。

▶アトリ (アトリ科)

スズメくらいの大きさ。農耕地や山の林にすみ、アカマツの種子、イヌタデなどの種子を食べます。とくに春には大群となって飛来し、キョッキョッキョッキョツと鳴きます。



▲ヘニマシコ (アトリ科)

スズメぐらいの大きさで尾が長い。北海道で繁殖し、冬は本州以南に移動し、松・杉の種子や草の種子を食べます。本州では水辺の草地やヨシ原でヒツソビと働き合う姿が見られます。



▲イカル (アトリ科)

ムナヅクぐらいの大きさ。山奥の林に生息し、秋・冬には群れて平地にやってくる。松・杉などの種子や昆虫を食べます。冬でもキーキーと鳴きますがそれを「お祭二十四」と聞きなします。

珍しい鳥(迷鳥)



台風や豪雪などにより偶然渡来した鳥や夏鳥、旅鳥、冬鳥、漂鳥のなかで本州周辺での観察例が稀少な鳥。(37種)

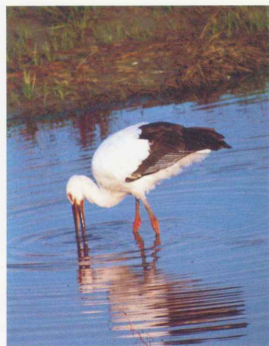
ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、ミソゴイ、コウノトリ、マガン、ヒシクイ、オソハフチョウ、コハフチョウ、アカツシガモ、オシドリ、アメリカカビドリ、シマアジ、ホオシロガモ、ウミアイサ、オシロワシ、クマタカ、コアサアシギ、チュウジシギ、セイタカシギ、オオセグロカモメ、コノハズク、オオコノハズク、ハリオアマツバメ、ヤマセミ、アカショウビン、ヤツガラス、ムネアカタヒバリ、キレンジャク、オガワコマドリ、ウキアカツグミ、シマセンコユウ、ムギマキ、コジュリン、スグロチャキンチョウ、ハギマシコ、コイカル、カラムドリ



▶ミミカイツブリ (カイツブリ科)

ハトぐらいの大きさ。

冬鳥として河口や内海に渡来しますが、ときには湖中に近い地や川にも飛来します。本州付近での観察はまれです。



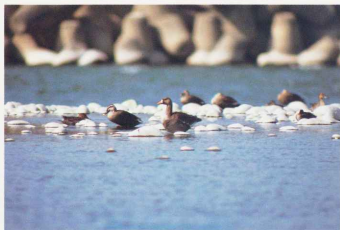
◀ **コウノトリ** (コウノトリ科)

ツルのように大きな水鳥で、翼を広げると2mに達します。

1959年頃までは日本でも繁殖するものがあったが、現在では冬鳥として大陸からまれに渡来し広い水田、大きな川などで産、カエルなどを食べます。

▼ **マガン** (ガンカモ科)

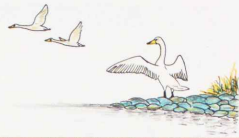
トビやらしい大きな水鳥。我国では冬鳥として広い水田や湖沼に渡来し、水草の茎や根を食べます。本町には本曾川に少数が飛来します。



▶ **オオハクチョウ** (ガンカモ科)

コウノトリより大きく翼を広げると約240cmに達する大きな水鳥。

冬鳥として浅瀬のある池内や広い湖沼に渡来し、水底の水草の茎や根を食べます。



▲ **オジロワシ** (ワシタカ科)

トビより大きい御フシ。北海道で少数が繁殖するが多くは冬鳥として海岸や河口に渡来します。

主に魚を食べるが鳥やけものも捕ります。



▲ **ハリオアマツバメ** (アマツバメ科)

ムクドリくらいで翼が長い。夏鳥として渡来し、北海道では低地から山地の上空を、本州では中部山岳地の上空を飛びまわりの、廻りのときには本町付近も通過します。



▶ **コイカル** (アトリ科)

ムクドリより小さい。冬鳥として林に少数が渡来し、木の実を食べます。本町では少数が増殖されています。



川島町付近木曽川流域で観察された野鳥

科	名	種	漢字名	春	夏	秋	冬	区	分	ページ
カイツブリ	カイツブリ ミミカイツブリ アカリカイツブリ カラムカイツブリ	鳥 画 魚 画 冠 冠 冠 冠	画 鳥 画 魚 画 魚 画 魚	○	○	○	○	留・繁	83,	25, 26, 28, 29, 30
				○	○	○	○	留・稀	33,	
				○	○	○	○	留・少	33,	
ウ	カワウ	川 鳥	画 鳥	○	○	○	○	留又は遷	83,	21, 22, 25,
				○	○	○	○	留・稀	33,	
				○	○	○	○	留・繁	33,	
				○	○	○	○	留・繁	33,	
				○	○	○	○	留・繁	33,	
サ	ミソギ ゴイソギ ササマサ ダイサギ チヨウサギ アオサギ	五 位 五 位 五 位 大 中 中 小 小 鳥	画 鳥 画 鳥 画 鳥 画 鳥 画 鳥 画 鳥	○	○	○	○	留・稀	33,	21, 22, 25, 26, 28, 29, 30, 31,
				○	○	○	○	留・繁	33,	
				○	○	○	○	留・繁	33,	
				○	○	○	○	留・繁	33,	
				○	○	○	○	留又は遷	83, 29,	
コウノトリ	コウノトリ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留又は遷	83, 29,	25,
				○	○	○	○	留又は遷	83, 29,	
カ	カンカモ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	冬・稀	33, 34,	16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31,
				○	○	○	○	冬・少	33,	
				○	○	○	○	冬・少	33, 34,	
				○	○	○	○	冬・少	33,	
				○	○	○	○	冬・稀	33,	
				○	○	○	○	留又は遷	33,	
				○	○	○	○	留又は遷	25, 26,	
				○	○	○	○	留・繁	83, 29,	
				○	○	○	○	留	27, 28,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				○	○	○	○	冬・	25,	
				ワ	シタカ	鳥 画	画 鳥	○	○	
○	○	○	○					留・繁	33, 29,	
○	○	○	○					留・稀	33, 29,	
○	○	○	○					留・少	25, 27,	
○	○	○	○					留・少	26,	
○	○	○	○					留・少	25, 27,	
○	○	○	○					留・稀	16, 27,	
○	○	○	○					留・稀	33,	
○	○	○	○					留・少	25,	
○	○	○	○					留・少	25,	
ハ	ヤブサ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	25,	27,
				○	○	○	○	留	25,	

科	名	種	漢字名	春	夏	秋	冬	区	分	ページ
キ	シ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	25,
				○	○	○	○	留	繁	83, 29, 30,
フ	イナ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	25, 26,
				○	○	○	○	留	繁	27,
タ	マシギ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	21, 22, 25,
				○	○	○	○	留	繁	28,
チ	ドリ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	21, 22, 25,
				○	○	○	○	留	繁	25, 26, 28, 29,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
シ	ギ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	16, 17,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
セ	イタカシギ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	16, 17,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
カ	モメ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	16, 17,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
				○	○	○	○	留	少	16,
ハ	ト	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	16, 17,
				○	○	○	○	留	少	16,
ホ	トギス	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	16, 17,
				○	○	○	○	留	少	16,
フ	クロウ	鳥 画	画 鳥	○	○	○	○	留	少	16, 17,
				○	○	○	○	留	少	16,

科名	種名	漢字名	春	夏	秋	冬	区	分	ページ
ヨウタクカ	ヨウタクカ	怪談	○	○	○		夏・繁		21, 図23
	アマツバメ	針尾燕			○	○	夏・少		33, 図26, 16
	カワセミ	燕	○	○	○		夏・少		33, 33
ヤツガシラ	ヤツガシラ	燕	○	○	○		夏・少		33, 33
	キツツキ	燕	○	○	○		夏・少		16, 25, 図23, 25
	ヒバリ	燕	○	○	○		夏・繁		8, 図11
ツバメ	ツバメ	燕	○	○	○		夏・繁		16, 21, 図24, 16
	セキレイ	燕	○	○	○		夏・繁		8, 図12, 図5, 25, 25
	ハクセキレイ	燕	○	○	○		夏・繁		8, 図12, 図5, 25, 33
サンショウクイ	サンショウクイ	燕	○	○	○		夏・少		16
	ヒヨドリ	燕	○	○	○		夏・繁		8, 図12
	モズ	燕	○	○	○		夏・少		16, 8, 図13, 16, 図16, 33
レンジャク	レンジャク	燕	○	○	○		夏・少		16, 図19, 25
	ミソサザイ	燕	○	○	○		夏・少		25
	ヒタキ(ツグミ亜科)	燕	○	○	○		夏・少		16, 16, 33, 16, 33
(ウグイス亜科)	コマドリ	燕	○	○	○		夏・少		16, 16
	ノコノコ	燕	○	○	○		夏・少		33, 16
	オガクコマドリ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33
	コルリ	燕	○	○	○		夏・少		16, 25
	ルリビタキ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図20, 16, 図20
	ジョウビタキ	燕	○	○	○		夏・少		25, 16, 25, 図20, 16
	ヒタキ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
	ノソビ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
	シロハラ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
	マミジロ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
	トラツグ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
	ウツグミ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
	アカハラ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16
シロハラ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16	
マミサザイ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16	
ツグミ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16	
ウアカツグミ	燕	○	○	○		夏・少		25, 25, 図30, 16	
ヤマササ	燕	○	○	○		夏・少		16, 図13, 33, 16	
ウグイス	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	
シマセンニユ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	
マキノセンニユ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	
ゴヨシキリ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	
オオシキリ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	
メボソムシクイ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	
エゾムシクイ	燕	○	○	○		夏・少		16, 33, 16	

科名	種名	漢字名	春	夏	秋	冬	区	分	ページ
ヒタキ(ウグイス亜科)	センダイムシクイ	燕	○	○	○		夏・		16, 25
	キウイタダキ	燕	○	○	○		夏・		25, 8, 図13
	セージツカ	燕	○	○	○		夏・		16, 図5, 16, 33
(ヒタキ亜科)	キヒタキ	燕	○	○	○		夏・		16, 図9, 16
	ムギマキ	燕	○	○	○		夏・		16, 図9, 16
	オオオルリ	燕	○	○	○		夏・		16, 図20, 16
(カサギヒタキ亜科)	サマビタキ	燕	○	○	○		夏・		16, 21
	エソビタキ	燕	○	○	○		夏・		21
	コサメビタキ	燕	○	○	○		夏・		21
エナガ	エナガ	燕	○	○	○		夏・		8, 図14
	シジウカラ	燕	○	○	○		夏・		8, 図14
	メジロ	燕	○	○	○		夏・		8
ホオジロ	ホオジロ	燕	○	○	○		夏・		8, 図14
	コジュリ	燕	○	○	○		夏・		33, 25
	ホオオカ	燕	○	○	○		夏・		25, 25
アト	カシラダカ	燕	○	○	○		夏・		25, 25
	ミヤマホオジロ	燕	○	○	○		夏・		25, 33
	スゴクヤンチョウ	燕	○	○	○		夏・		25, 33
ハタオリドリ	ノシコ	燕	○	○	○		夏・		16, 25, 図31, 25
	アオジ	燕	○	○	○		夏・		25, 図6, 25
	オオジ	燕	○	○	○		夏・		25, 図6, 25
ムクドリ	ムクドリ	燕	○	○	○		夏・		16, 図20, 33
	カラムドリ	燕	○	○	○		夏・		16, 図20, 33
	ムクドリ	燕	○	○	○		夏・		16, 図20, 33
カラス	カラス	燕	○	○	○		夏・		25, 8, 図15, 8
	ハシボソガラス	燕	○	○	○		夏・		25, 8, 図15, 8
	ハシブトガラス	燕	○	○	○		夏・		25, 8, 図15, 8
計	201種								

飼鳥のかご抜け, 放鳥 (13種)

イフシヤコ (岩鳩類), ドノド (岩鳩), セキセイインコ (背黄青鸚鵡), フカクホンセイインコ (輪掛本青鸚鵡), オカメインコ (片福面鸚鵡), コムラサキインコ (小紫鸚鵡), キバタン (黄白田), ギンバラ (銀腹), ペニスズメ (紅雀), フンチョウ (文鳥), ショウシマツ (十姊妹), テンニンチョウ (天人鳥), キュウカンチョウ (九尾鳥),

(参考)

留……留鳥 夏……夏鳥
冬……冬鳥 渡……渡鳥
旅……旅鳥 迷……迷鳥
繁……川原町で繁殖している鳥
少……川原町では数が少ない鳥
稀……川原町ではまれにしか見られない鳥
○印は川原町付近不田川流域で観察された時期
図印は写真あり, 数字はページを示す。



ねぐらに向うムクドリの子れ



参 考 文 献

日本産鳥類図鑑 高野伸二 著
日本の野鳥(全6巻) 数内正幸 著
日本鳥類大図鑑 清根幸保 著
万有百科大事典 朝小字館発行

写真その他資料提供者 (敬称略)

本館/田 後 藤 義 夫

昭和58年4月 発行

川島町とその周辺の野鳥

編集/池 原 謙
発行/岐阜県羽島郡川島町役場
TEL:056880-3311 内
印刷/株式会社イナリ印刷局社